



TITLE:

彙報 (2006年1月～2006年12月)

AUTHOR(S):

CITATION:

彙報 (2006年1月～2006年12月). 人文學報 2007, 95: 239-264

ISSUE DATE:

2007-03

URL:

<https://doi.org/10.14989/71067>

RIGHT:

彙 報

2006 年（平成 18 年）1 月～2006 年（平成 18 年）12 月

研 究 状 況

人文学研究部

複数文化接触領域の人文学

班長 田中雅一

本研究班は研究所付属国際研究センターの基幹プロジェクトの推進のために組織された。センターの活動である 7 月の記念講演会や 11 月の国際シンポとも連動して研究会を進めてきた。また成果の一部は『コンタクト、ゾーン 創刊号』にて公刊予定である。本プロジェクトの目的は、従来の一国を単位とする歴史・文学研究や地域を単位とする地域研究の問題点を踏まえ、周辺部を複数の文化が交わる接触領域ととらえ、そこでの文化実践のダイナミズムを考察することである。人文学の分野は専門が高度に細分化し、宗教対立や民族紛争など、時代の要請に十分に対応できないという指摘がなされて久しい。本プロジェクトは、こうした現状を人文学が早急に克服しなければならない問題と認識し、研究内容ならびに組織化という側面から現状克服の可能性を探る。東アジア、南アジア、中央アジアに接触領域を選び、その歴史的かつ現代的な状況を研究する。隔週でバーンズ著『カーブル』旅行記を会読して当該地域の理解を深めると同時に、個別報告をおこなってきた。

研究会記録（2006 年）

5 月 15 日 田中雅一「趣旨説明」/ 稲葉 稔（会読）

5 月 29 日 「河口慧海の『チベット旅行記』— そ

の背景、成立、影響 —」

報告：奥山直司

6 月 12 日 田中雅一（会読）

6 月 26 日 「真諦三蔵の講義録にみるインドと中国の文化交渉」 報告：船山 徹

7 月 10 日 田辺明生（会読）

10 月 16 日 「オリシャ崇拝がおりなす対話的・相互交渉的な文化接触」報告：小池郁子

10 月 30 日 奥山直司（会読）

11 月 13 日 「トランスカルチュレーションとナショナリズム— M. K. ガーンディーにおける食、性、健康と自己統治（スワラージ）」 報告：田辺明生

11 月 27 日 「東南アジアを中心とする日本人バックパッカーの研究」 報告：大野哲也

12 月 4 日 田中祐理子（会読）

12 月 12 日 「南インド・スリランカへのイスラーム初伝について」 報告：稲葉 稔

移民の近代史 — 東アジアにおける人の移動 —

班長 水野直樹

20 世紀前半における東アジアの「人の移動」「移民」について、歴史学、経済史、社会学、地理学など各分野の研究者による共同研究として進めている。日本が支配した朝鮮や「満洲」を軸としながら、人の移動をめぐる相互関係にも注意を払っている。また、日本敗戦後の大変動期にいかなる形で移動が起こったかについての研究発表も行なわれた。従来の研究とは異なる視点を得ることができると期待している。

研究会記録 (2006 年)

- 4 月15日 「研究班を始めるにあたって」
水野 直樹
- 5 月27日 「19 世紀アジアにおける自由貿易と移民」
籠谷 直人
「日本の移民政策と朝鮮人「内地」渡航制限 — 1929 年社会政策審議会と 1934 年閣議決定をめぐって —」
水野 直樹
- 6 月10日 「内務省による朝鮮人渡航管理政策 — 「一時帰鮮証明書」制度について —」
福井 譲
(書評・紹介) Uchida Jun, “Brokers of empire’: Japanese settler colonialism in Korea, 1910–1937” (Harvard University, 2005, PhD. dissertation)
李 昇 燁
- 7 月 9 日 「日中戦争期及び米軍政期における在朝華僑の移動に関する一考察」
李 正 熙
(書評・紹介) イグリ R. サヴェリエフ『移民と国家—極東ロシアにおける中国人, 朝鮮人, 日本人移民』(お茶の水書房, 2005 年 2 月) 坂口 満宏
- 9 月16日 「植民地期朝鮮鉄道における軍事輸送 — シベリア出兵・満州事変と釜山」
坂本 悠一
「朝鮮族移住史論」 崔 鳳 春
- 10月14日 「植民地期の朝鮮済州島における水産加工業 — 歴史地理学のアプローチから —」
河原 典史
「1927 年植民地朝鮮における華僑排斥事件」 松田 利彦
- 11月11日 「『満州』開拓から戦後開拓へ — 京都府の事例を中心に —」 安岡 健一
「在満朝鮮人『民族教育改良運動』試論」 金 永 哲
- 12月 9 日 「アメリカ占領期における『不法入国』朝鮮人に対する法制度の変遷 — 地方レベルでの「退去強制」をめぐる問題を中心に —」 福本 拓

「戦前期京都市における被差別部落の状況と在日朝鮮人」

高野 昭雄 (ゲスト)

虚構と擬制 — 総合的フィクション研究の試み

班長 大浦康介

2 年目の今年は、昨年に引き続きフィクション論関係の基本文献 (カイヨワ, ベンサム, シェフェール, カリー) を読むとともに、漫画、情報教育、折口信夫、日本近世の領主支配、インドの儀礼、フェリーニの映画、コーマック・マッカーシーの小説、現代日本文学と文字の問題、トロンプ・ルイユに関する自由発表を行った。虚構性の定義が班員のあいだで共有されたとはいえないが、フィクション的現象のすそ野の広さは十分に認識されつつあると思われる。最終報告に向けた自由発表の系統づけが今後の課題のひとつとなろう。本年度はサブカルチャー、法学、精神分析等におけるフィクション問題の検討を予定している。

研究会記録 (2006 年)

- 2 月 6 日 「非虚構の物語から作られた虚構の物語はどこまでが虚構なのかの物語」
池田 巧
- 2 月20日 「コンピュータを使わない情報教育 四ノ巻」
塩瀬 隆之
- 3 月 6 日 「折口信夫とモドキとしての身体」
川村 清志
- 4 月17日 「ロジェ・カイヨワ『遊びと人間』を読む」
近藤 秀樹
- 5 月 8 日 「コンピュータの中の存在」
守岡 知彦
- 5 月22日 「ジェレミー・ベンサムの功利主義的フィクション論」
久保 昭博
- 6 月 5 日 「近世の領主支配はどのようにして実現していたのか」
岩城 卓二
- 6 月19日 「儀礼における経験的リアリティはいかに構築されるか」
田辺 明生
- 7 月 3 日 「フェデリコ・フェリーニ監督『8 1/2』(1963)」
石田 美紀
- 10月16日 「Cormac McCarthy: 越境としてのフィクション」 フランソワ・ラショウ

11月6日 「中間総括/J.-M. Schaeffer, 『なぜフィクションか?』を読む」

大浦 康介

11月20日 「現代日本文学におけるフィクションの文字/文字のフィクション」

セシル・サカイ

12月4日 「哲学的フィクション論への眼差し — グレゴリー・カリーの仕事」

河田 学

12月18日 「トロンプ＝ルイユとは何か：虚構としての絵画」

高階絵里加

共同研究班「文明と言語」 班長 横山俊夫

当研究班は、文明化過程において言語という社会媒体がどのように変容するか、その諸相を前近代の文芸から現代科学にいたる多様な分野から検討しようとの意で、2002年度に発足。本年2007年3月、当初予定した5年間の活動をほぼ終えることができた。2007年度は、主として報告書のとりまとめにあてる予定である。

なお、2006年における当研究班のいわば副産物として、以下のものを刊行した。

- ・資料輪読の報告書『難波鉦 — 梅之部』共同研究報告拾遺（17世紀色道書の現代上方語訳）、人文研2006.3、同続編『難波鉦 — 松之部』人文研2007.3刊。
- ・「はんなり京都嶋臺塾」開催（先端環境学の知識を京ことばで練り直す町家塾、年3回、主催 三才学林）、『嶋臺塾報告』第1冊2006.3、同第2冊2007.3刊。
- ・第8回京都大学国際シンポジウム「地球社会の調和ある共存に向けて」開催（2006.11於バンコク、京都大学国際交流推進機構、7つの学内21世紀COE、1研究ユニットの合同企画／とくに現代科学技術の言語表現問題につき三才学林で準備会議開催）横山共編の和英両文『中間報告書』2007.3刊。

人種の表象と表現をめぐる学術的研究

班長 竹沢泰子・小関 隆

本年度は、代表者の帰国後7月から再スタートを

切り、3月に予定している研究会を含めると計10回（19報告）の開催となる。開催記録は以下の通りである。人種をめぐる議論のなかでもとくに核心部の表象と表現に迫る努力を行った。また人種とジェンダーの交錯やジェンダー表象そのものも考察する機会に恵まれた。次年度は成果発表に向けて理論的發展に力点をおきたい。

研究会記録（2006年）

7月14日 「研究会再開と成果発表について」

竹沢 泰子

「Miscegenation の物語 — アメリカ合衆国の人種秩序の政治と表象」

貴堂 嘉之

7月15日 「〈顔が変る〉— 植民地朝鮮における人種の標識の〈見分け〉をめぐる言説—」

李 昇燁

「ハワイのパートジャパニーズの諸実践にみる人種とエスニシティの交錯」

森 仁志

9月30日 'AUTHENTICATING ALTERITY: STEREOTYPES OF THE BLACK OTHER IN JAPAN AND THE UNITED STATES (FIG 1)'

John G. Russell

「日米における『黒人身体能力・運動能力 (black athleticism)』表象」

川島 浩平

10月20日 「ゲノム医学研究における人類集団の呼称について — 近年の動向から」

加藤 和人

「『望楼』のヒエラルキー」金 麗実

10月21日 「映画『橋のない川』にみる部落問題表象」

黒川みどり

「蜂起の記憶 — 台湾原住民に関する民族心理学、精神医学的研究をめぐる」

坂野 徹

12月1日 「19世紀フランスにおける人種・国民・文化：思想的考察」

長谷川一年（ゲスト、同志社大学・

帝塚山学院大学非常勤講師）

12月2日 「アジア系アメリカ人芸術家たちの抵

抗と現実 ― 中間報告 ― 竹沢 泰子
「人種主義論再考 ― 東アジア史の視点
から」 與那覇 潤

啓蒙の運命

班長 富永茂樹

本研究班では、2006年度には合計して16回の研究会を開催して（2007年1月現在）、いかに掲げるような、19世紀から20世紀にいたるヨーロッパの世界で《啓蒙》の観念がどのように受容・理解（あるいは拒否・誤解）されてきたかを、文学、科学、音楽などさまざまな領域のなかにおいて考察する報告、またこの観念の参照項となる18世紀における思想・文化の変容をとそこでのいくつかの問題系についての報告をいただき、それぞれについて実り多い議論を導き出すきっかけとなった。ただし、現時点ではまだしかたないものの、各自の「専門」の立場から《啓蒙》問題にアプローチする報告が少なくはなく、論点の整理と統合、そして視野をヨーロッパ世界にとどまらずアジアにまで広げてゆくことが、来年度の課題として残されている。

また今年度中には、フランスからマリー・レカ＝チオミス パリ第10大学教授、来年度にはロシアからセルゲイ・カルプ モスクワ世界史研究所教授を招いて、「啓蒙の運命」についての国際的な討論も進めて行く予定である。

研究会記録（2006年）

- 4月21日 音楽における公空間をアドルノはどう考えていたか 岡田 暁生
- 4月28日 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』における近代と合理性 白鳥 義彦
- 5月26日 フランスにおける新カント主義と共和主義 北垣 徹
- 6月9日 ナチズム期の「啓蒙」問題 藤原 辰史
- 6月23日 トマス・マンと啓蒙 吉田耕太郎
- 7月7日 啓蒙と現代的科学の問題をめぐって 田中祐理子
- 7月21日 啓蒙主義あるいは啓蒙的なものとペロニズム：アルゼンチン史の文脈のなかで考える 松下 洋

- 9月15日 トクヴィルと二つの啓蒙：フランスとアメリカ、18世紀と19世紀 宇野 重規
- 9月29日 フローベール『ボヴァリー夫人』とトクヴィル：平等化の論理の物語的形象化 松澤 和宏
- 10月6日 マッシュー・アーノルドにおける近代・教養・国家 小田川大典
- 10月20日 メランコリーの運命：精神医学における啓蒙と革命 富永 茂樹
- 11月10日 マルクスのイデオロギー批判 齊藤 渉
- 11月17日 ドイツ・ロマン主義と啓蒙 久保 昭博
- 12月1日 ルソーを読むデリダ：『グラマトロジー』をめぐって 増田 真
- 12月8日 帝国から帝国：レナル『両インド史』における「文明化」の概念と世界史の誕生 王寺 賢太

近代古都研究班

班長 高木博志

「古都」とは、天皇がいなくなった「旧都」（もとのみやこ）である。1869年の東京「奠都」（てんと）による天皇の畿内よりの離脱は、古代から近世をつらぬく王権の基盤を編成替えする日本史上の事件であり、奈良・京都という古都形成の起点となる。

さて「近代古都研究」班では、「近代京都研究」班（2003－2005年度、丸山宏班長）を発展させ、歴史学・建築学・造園学・美術史などの諸分野の研究者による総合的な研究をはじめた。「歴史と都市」をひとつの手がかりとして、京都のみならず、奈良・首里・伊勢や地方城下町といった「近代古都」を研究対象にしてゆきたい。

「古都」は近代に生みだされたものであり、その言葉は古都保存法（1966年）以降の戦後社会に定着する。2003年に大津が古都保存法で指定（10番目）され、金沢等の城下町も対象として考えられつつある。また冠せられた「古都」というイメージと都市行政のめざすものは、必ずしも一致したわけではない。「近代京都研究」班で明らかになったように、つねに工業・産業振興を行政の基盤におく京都府や

市の姿勢があったことなど、その理念と実態には歴史的にズレがあった。したがって研究会では大わくで、「古都」（園田英弘氏のいう「みやこ」）の王宮性・首都性・都会性）とみなされている場を対象とし、近世から現代までのスパンで、学際的に自由な議論を重ねてきた。7月22－23日には、近江八幡の文化的景観の指定、古都保存法への大津の登録、中世村落菅浦の地域構造などの検討を内容とする研修旅行を行った。

近世史についても、「古都」の多様性を考える上でも、そのあり方の解明は不可欠である。研究会を重ねるなかで、日本における「古都」論を考えてゆけたらと思う。また将来的には慶州や西安などのアジアの古都やヨーロッパの古都についても研究の射程にのりてゆきたい。

班員 岩城卓二、金文京、高階絵里加、谷川穰、水野直樹（以上、所内）、秋元せき、井上章一、井原縁、伊従勉、内田和伸、大場修、岡村敬二、長志珠絵、小野健吉、小野芳朗、河西秀哉、桐浴邦夫、工藤泰子、黒岩康博、小林丈広、清水愛子、清水重敦、鈴木栄樹、Henry Smith、高久嶺之介、田島達也、田中智子、谷山正道、中川理、中嶋節子、並木誠士、奈良勝司、羽賀祥二、幡鎌一弘、原田敬一、日向進、廣瀬千紗子、福井純子、福島栄寿、藤原学、丸山宏、毛利紫乃、本康宏史、山上豊、山田誠、山田由希代、吉井敏幸、吉田栄治郎

研究会記録（2006年）

- 4月15日 「近代古都研究」班の発足にあたって
高木 博志
北垣府政期の東本願寺 谷川 穰
- 5月20日 近世・近代京都の寺社と学芸
金 文京
平安遷都千百年記念祭をめぐって
小林 丈広
- 6月17日 都市と武家社会 ― 古都論を考えるために
岩城 卓二
城跡の近代建築遺構と移築された城郭建築遺構 内田 和伸
- 7月22・23日 エクスカーション
(近江八幡・大津・菅浦)
近江八幡水郷・大津市・菅浦の景観お

よび古都保存法に関わる研究会

(丸山宏・伊従勉・上島享)

- 10月21日 書評会（伊従勉『琉球祭祀空間の研究』） 高木博志・岩城卓二
- 11月18日 近代都市と歴史性―名古屋とその周辺地域について 羽賀 祥二
敗戦後における京都御苑と皇居前広場 河西 秀哉
- 12月16日 「三都論」小考 丸山 宏
高等学校制度の成立と受容 ― 第三区域（京都・大阪・兵庫・岡山）を中心に 田中 智子

アジア・ネットワークの研究 班長 籠谷直人

市場の安定をいかに確保するのかという問題を、ネットワークを通して議論した。近代の市場秩序は、財産権の保護、独占の排除、公共財の提供といった公権力が提供する制度だけでは維持できない。民間からも市場秩序の安定を、認識することが必要である。たとえば、財・サービスの標準化、団体による紛争処理機関の設置、利益の予想や事業の意義を説明できるコーディネーターの育成、民間へのインセンティブの供与、などが必要である。ある法社会制度やイデオロギーだけではなく、「道徳・共感・慣習・儀礼」などが、広域の個々人の行動の社会基盤となってこそ、市場取引に安全がもちこまれる。

人、もの、カネ、そして情報などの資源を調達するときに、市場は「価格」によって、組織は「指令」によって、それを実現する。しかし、震災などの環境変化が生じて、公権力の行使も十分でないときに、道徳・共感・慣習・儀礼を通して、商人のネットワークが限られた資源を調達することを私たちは知っている。地縁や血縁のネットワークは、個人の自由な選択を制限することもあるので、前近代的とみなされてきたが、ある程度の排他性は、環境が激変したときに、限られた資源を調達することに有効である。国の「際」（きわ）に激変が生じて、公権力の後援をうけないアジア商人のネットワークは、資源調達を可能にする。所有権と契約の履行にたいして司法や公権力の後援がなくても、共同体や会員制組織は、それなりの排他性を持ちつつも、市

場を動かすシステムを構築する。本研究班では、その成果の発表の場として、「華僑華人ネットワークの新世代」の国際シンポジウムを開催（2007年9月9日）する。

研究会記録（2006年）

4月14日 「アジアにおける自由貿易の浸透」

籠谷 直人

4月28日 「18世紀の清朝の互市論」

岩井茂樹氏

5月19日 「グローバル化／環境変容／疫病 — 19世紀アジアにおけるコレラを中心として」

脇村孝平氏

6月2日 「市場とヒエラルキーを越えて — アジア商人のネットワーク／20世紀、華僑送金網の組織と動態」

城山智子氏（ゲスト）

6月16日 「イギリス帝国とアヘン」

後藤春美氏（ゲスト）

8月24日 成果報告 ヘルシンキ：国際経済史学会

Networks and Empires: Indian Migrants/Merchants in East Asia and Beyond

籠谷直人 大石高志（神戸市立外国語大学） 脇村孝平（大阪市立大学） Lee Pui-tak 李培徳（香港大学） Lin Man-hong 林紅満（中央研究院，台湾） Choi Chi-cheung 蔡志祥（香港中文大学） Rajeswari A. Brown (SOAS, London University, UK) 神田さやこ（慶応義塾大学） Claude Markovits (SOAS, London University, UK) Liu Hong 劉 宏（National University of Singapore） 陳来幸（兵庫県立大学） 城山智子（一橋大学）”

9月22日 「帝国と慈善」 帆刈浩之氏（ゲスト）

10月27日 「1930年代前半の英印通商関係と日本 — インド棉花輸出問題と対英特惠」

木谷名都子氏

11月24日 「20世紀初頭の香港における銀本位制の展開と国際金本位制の普及」

西村雄志氏

12月9日 「東ユーラシア史の可能性」

上田信氏（ゲスト）

空間の再審 — 人文・社会科学の新基軸を求めて —

班長 山室信一

研究会の趣旨

空間とは、時間とともに人間が自己と他者について認知していくための不可欠な枠組みであり、人間とその社会のありかたを追求すべき人文・社会科学においては、明確な概念規定に基づく体系化が要請されている。しかしながら、欧米近代の人文・社会科学においては、時間こそが基軸となっており、空間そのものを対象として捉えることに必ずしも成果を挙げてきたわけではない。しかも、グローバリゼーションの進行の中で空間の把握は時間や速度によって置き換えられつつある。しかし、グローバル化によって生活様式の平準化が進めば進むほど、機構や生態などの地理的条件、都市や建築などの空間形式の差異のありかたこそが、人間観・社会観そして世界認識のありかたをますます規定していく可能性もまた否定できない。

この共同研究では、自然環境と人間活動の関係や、生活空間としての都市・建築などの形成のされかた、そしてさらにそれが世界認識としていかに把握されてきたか、といった学知と実践知そのものを再審に付し、そこから新たな人文・社会科学の基軸を析出していくことをめざした。

研究会記録（2006年）（文献講読および研究発表）

(1) 空間論全体にかかわるもの

ルフェーブル『空間の生産』

(2) 社会空間について

テンニエス『ゲマインシャフトとゲゼルシャフト』、大塚久雄『共同体の基礎理論』、ソジャ『第三空間』

(3) 広域世界とその認識

「アジアの生産様式論」とアジア空間認識、フィットフォーゲル『支那社会の科学的研究』ほか、ダレエ『血と土』、岡倉『東洋の理想』、西田「場所的論理と宗教的世界観」ほか、津田『支那思想と日本』、谷川『東洋と西洋』、高山『世界史の哲学』、西谷「世界史の哲学」、桑原

「唐宋時代におけるアラブ人の支那通商の概況…」

「地域研究の論理と京都学派の哲学」「近世から近代にかけての秩序認識のあり方」

(4) 海域世界

海域世界と『地域の世界史』シリーズ, 小川『抵抗と越境』, 瀬戸内海フィールドワーク

(5) 建築

八束はじめ『思想としての日本近代建築』

(6) ネット空間

『インターネットの社会学』ほか

(7) 都市空間

柳田「都市と空間」
セルトー『日常実践のポエティーク』

(8) 身体

「フーコーの空間論」, 『身体論のすすめ』

(9) 地理学

内村『地理学考』, ソジャ『ポストモダン地理学』, 牧口『人生地理論』

(10) 生態・環境

藤原『ナチス・ドイツの有機農業』, モンゴル・フィールドワーク, 『環境と人間の歴史』

(11) 経済空間

『空間のイギリス史』

(12) 政治空間・記憶される空間

シンポジウム「帝国日本を生きたナチズム」,
石川『国土計画』, 江澤『地政学概論』, 『地図が作ったタイ』, 対馬フィールドワーク 沖縄戦戦跡フィールドワーク

研究成果の公開

特別シンポジウム「帝国日本を生きたナチズム」

岩波講座『「帝国」日本の学知 第8巻 空間形成と世界認識』

王権と儀礼

班長 藤井正人

本共同研究は、王権と儀礼との関係を古代インドの王権儀礼を中心に研究することを目的としている。ヴェーダ文献を基礎資料にしているが、インド学の諸分野のほか、歴史学、考古学、美術史、人類学な

どの複数の視点から資料を分析するとともに、さまざまな時代と地域における王権と儀礼に関わる問題を比較研究の対象としている。

隔週に開いている研究会では、会読と報告を組み合わせ、初年度は会読を2回行なうごとに報告を1回行なったが、2年目の今年度は、研究の射程を見定めるために、報告の比重を増やして会読と報告を交互に行なっている。会読では、ヴェーダ祭式文献の中から王即位式（ラージャスーヤ）に関するすべての箇所を読解し、この儀礼に関する全資料の総覧をめざしている。今年度末で全体の3分の2の検討を終え、来年度からは残り部分の読解と並行して、出版に向けた資料の編集を進める予定である。報告については、本年度はこれまでに人類学、インド文献学、中世インド宗教史、インド美術史、イラン学から「王権と儀礼」に関係する報告を受けた。次年度からは、報告と会読との関係をより緊密にするために、会読で作成した資料を報告会で提示して、さまざまな角度から分析し検討することを予定している。

研究会記録（2006年）

1月20日 第12回研究会（報告会5）

ムスリム王朝と「聖遺物」参拝儀礼：
南アジアの事例を中心に 小牧 幸代

2月3日 第13回研究会（会読8）

Vadhula-Srautasutra 10, 3, 29-73
小林 正人

5月12日 第14回研究会（総括）

これまでの研究のまとめと、これからの進め方 藤井 正人

5月26日 第15回研究会（報告会6）

近世インド・オリッサにおける地域社会と王権－儀礼と贈与交換から考える
田辺 明生

6月9日 第16回研究会（会読9）

Vadhula-Srautasutra 10, 4, 1-32
堂山英次郎

6月23日 第17回研究会（報告会7）

古代インドの王と司祭 — 王付司祭（プローヒタ）と主席祭官（ブラフマン）を中心に — 藤井 正人

- 9月29日 第18回研究会（報告会8）
Initiating the Monarch in Saivism Alexis Sanderson
- 10月20日 第19回研究会（会読10）
Vadhula-Srautasutra 10, 4, 33-5, 34
梶原三恵子
- 11月17日 第20回研究会（会読11）
Vadhula-Srautasutra 10, 6, 0-12
手嶋 英貴
- 12月1日 第21回研究会（報告会9）
インド古代壁画と王侯 — アジャンター壁画を中心に — 定金 計次
- 12月15日 第22回研究会（会読12）
Vadhula-Srautasutra 10, 6, 10-40
井狩 彌介

東方学研究部

中国絵画の総合的研究

班長 曾布川寛

中国絵画の資料は、発掘に基づく古代・中世作品の出現、伝世する近世作品の公開などによって、近年ますます増加の一途をたどっているが、多くは未消化のまま放置されているのが現状である。この膨大な資料に対して、まずデータベースによる系統的整理が必要であり、また多方面からのアプローチが要求されている。本研究班は可能な限り資料を収集し、様式論、図像学、画論、技法はもとより、パトロン、蒐集などの観点から考察し、更に書法・篆刻、詩文などの面からのアプローチも加え、総合的な研究を試みる。班員及びゲストスピーカーによる研究発表は、以下の通りである。

研究会記録（2006年）

- 1月20日 中国宋元佛画について 西上 実
- 1月23日 北魏佛教試論 — 北魏佛教美術を理解するために — 大原 嘉豊
- 2月6日 趙孟頫「水村図巻」について
西尾 歩
- 2月23日 中国藝術論における「醜」の問題・序説
宇佐美文理
- 4月29日 墨蹟について 弓野 隆之
- 5月15日 唐代の樹石画について — 松石図を中

心に — 竹浪 遠

5月29日 顔真卿の子孫について 宮崎 洋一

6月12日 奉先寺遺跡で発掘された石碑について
エリカ・フォルテ

6月26日 『善光寺縁起』にみえる百済佛教受容の一例 金 春実

7月10日 中国出土のソグド石刻画像試論
曾布川 寛

9月30日 齊白石とその周辺 西上 実
文人たちの東アジア — 詩書画がつなぐ中国・朝鮮・日本 — 塚本 鷹充

10月16日 唐代佛教絵画におけるインド様式の受容 — 画史文献における評価の問題を含めて — 定金 計次

10月30日 半跏思惟像の図像考察 — 龍門石窟古陽洞を中心に — 徐 男英
四川広元石窟についての研究 — 初唐

〜盛唐期皇澤寺・千佛崖石窟の降魔触地印佛坐像を中心に — 金 銀児

11月13日 鳥翼冠と三面三日月冠の中国への伝播について — 新出ソグド人葬具浮彫から — 影山 悦子

11月27日 三星堆銅玉器の図像 曾布川 寛

12月11日 方士庶「山水図冊」 — その古画理解と画風変遷における位置をめぐって
塚本 鷹充

王玄策研究（2001.04～2006.03） 班長 高田時雄

本研究班は、唐の太宗から高宗の時代にかけて、数度にわたりインドに旅行した王玄策の著作『中天竺国行記』の佚文を集成し、読み解くことによって、当時の中国からインドにわたる地域の歴史・宗教・言語・文化などの情報を引き出すことを目的とする。すでに関連資料のテキスト校訂・訳註整理等の作業をほぼ終え、報告書を作成中であり、近日中の刊行を目指す。

西陲發現中國中世寫本研究（2006.04～2010.03）

班長 高田時雄

19世紀末以来、敦煌・トルファンさらに東トルキスタン各地の遺蹟から数多くの寫本が発見された。

しかしこれら寫本の研究は、資料の公開整備が格段に進んだこと、寫本研究の方法が嚴密化したことなどにより、近年全く新しい段階に入ったと言える。本研究班では、漢文寫本を中心とし、歴史、宗教、言語、文學など様々な角度から検討を加え、西陲發現寫本の総合的な研究を展開する。

漢簡語彙の研究

班長 富谷 至

居延、敦煌一帯から出土した漢簡の語彙を確定する。「木簡を読むための辞書」を作成することを目的とし、成果としては木簡辞典の出版である。

以下、その一例を示す。

【收】しゅう

① とりたてる。受領。

『左伝』昭公三「以家量貸、而公量收」、

「□□2年2月丁酉朔丁卯甲渠・候護敢言之府書曰治渠卒價

□□自言責・長孫宗等衣物錢凡八牒直錢五千一百謹收得」(E. P. T 52: 110)

② 収容する、おさめる。

『韓非子』說難「陽收其身、而実疏之」

「書到自今以來獨令縣官鑄作錢令應法度禁吏民毋得鑄作錢及挾不行錢輒行法諸販賣

發冢衣物于都市輒收没入縣官四時言犯者名状●謹案部吏毋犯者敢言之」(E. P. F 22: 39)

③ 捕獲する、捕らえる。

『説文解字』三下「收、捕也」

「□府記曰收小畜息□□□□」(E. P. T 10: 13)

④ あつめる。とりいれる

『史記』太史公自序「春生夏長、秋收冬藏、此天道之大經」

制詔御史秋收斂之時也其令郡諸侯・

地節三年八月辛卯下 E. P. T 53: 70 A

⑤ 人名：顧收・杜收（戌卒）・隧長收

「葆鸞鳥息衆里上造顧收年十二長六尺黑色一皆六月丁巳出不」(15・5)

「隧長收／肩水候官／病書」(274・36)

「戌卒魏郡内黄□居里杜收 貰賣鶉縷一匹直千廣地萬年燧長孫中前所平六□」(112・27)

【收責】しゅうせき

① 借金をとりたてる。納入すべき債をとりたてる

『史記』孟嘗君傳「客食恐不足、故請先生、收責之」

「收責報會月十日謹以府書驗子都名親辭 故居延令史喬子功」(3・2)

傳統中國の生活空間

班長 田中 淡

中國の傳統的な生活空間および造形、すなわち具體的には住まい、宮殿、庭園、あるいは家具配置、室内空間、日常生活と儀禮等々の諸相をととして、その特質を探る。時代・地方を限定せず、また建築空間に限らず、廣義的な意味で日常あるいは儀禮の生活空間を対象として、中國學の關連分野および東アジア、周邊地域の専門家の参加を得て、多様な研究主題をとりあげてゆく。研究発表と併行して班員共通の會讀テキストとして、明・方以智『通雅』宮室をとりあげる。標記の期間に行われた研究発表・會讀等は左記の通り。

研究会記録（2006年）

1月24日 The remains of the Great Fengxian Monastery 中國イタリア共同発掘調査：唐代大奉先寺遺跡

エリカ・フォルテ

2月28日 王世貞の庭園記―「弇山園記」を中心に― 村田 滯

3月14日 晚清期農書『馬首農言』に見える山西地区農民の生活―最近の山西地区農村概況調査報告を兼ねて―

渡部 武

5月9日 『通雅』卷三十八「宮室」睢陽虎園臺 高井たかね

5月23日 『通雅』卷三十八「宮室」謬門

高井たかね

6月13日 文宗の奎章閣と順帝の宣文閣、端本堂―元朝皇帝が建てた中国的建築の中のモンゴル 福田 美穂

6月27日 東アジアの木造建築と道具―ユーラシア大陸東西の比較を含めて

渡邊 晶

9月5日 隋唐佛教伽藍模仿宮殿平面配置的背後因素 黄 蘭翔

10月10日 Borrowing the landscape 借景：

Theory in China's *Yuan* 『園冶』
(1634) and Practice in Japanese
garden art of the seventeenth century.
ウィーベ・カウテルト

- 10月24日 信西の「異朝明堂指圖記」について
豊田 裕章
- 11月14日 『通雅』卷三十八「宮室」夏屋
高井たかね
- 11月28日 Buddhist sutras engraved on mountains in Shandong 山東
ロタール・レダローゼ

三教交渉の研究(Ⅱ)

班長 麥谷邦夫

本研究班は、「三教交渉の研究」研究班の後を承け、引き続き中國中世における儒佛道三教間のかかりをさまざまな角度から研究することを目的に、2005年度から5年間の豫定で組織された。本年度以降は、陳垣『道家金石略』所收の隋唐道教關係碑文の解讀を豫定してをり、手始めに以下の七碑の解讀を行った。

老氏碑 宗聖觀記 烏石觀記 祁觀天尊碑 至
德觀法主孟靜素碑 益州至眞觀主黎君碑 潤州
仁靜觀魏法師碑

北朝石刻資料の研究

班長 井波陵一

昨年に引き続き、人文科学研究所所蔵の北朝石刻資料(一部南朝も含む)のうち、比較的まとまった内容をもつものを取り上げ、実際に拓本を拓げて文字の対校を行い、ついで訓読・語注を施す作業を進めた。その際、各種の関連文献や他機関が所蔵する拓本の写真をできる限り参照した。本年検討を加えた資料は、爨龍顏碑、劉宋劉懷民墓誌、北魏散騎常侍安西將軍吏部内行尚書宕昌公暉福寺碑、魏孝文帝弔比干文、平東將軍營州刺史元景造石窟記である。

20世紀中国の社会システム

班長 森 時彦

清末から現在にいたる100年間における中国の社会システムの変動を多様な側面から総合的に検討することを目的として2003年4月に発足した本研究班は、5年計画の4年目を終えようとしている。

2008年3月のゴールをめざして、本年は政治、

社会、教育、思想、経済、産業などの分野で、報告論文集作成に向けた研究発表が若手を中心に意欲的に行われた。報告のタイトルは以下のとおり。

研究会記録(2006年)

- 1月27日 ユダヤ人苦難の継続—1943年2月18日、上海虹口地区に設置された「上海ゲッター」の考察— 関根 真保
- 2月17日 近代中国における「社会」意識の形成 川尻 文彦
- 4月21日 満鉄調査部という「神話」—「支那抗戦力調査」を中心に— 江田 憲治
- 5月12日 孫文遺書をめぐって 石川 禎浩
- 5月26日 従供給制到等級工資制 楊 奎松
- 6月9日 清仏戦争前夜における清朝中央の外交政策決定過程 大坪 慶之
- 6月23日 1920年代の湖南省における教育界 宮原 佳昭
- 9月29日 清末広東地域エリート的人的関係—広東地方自治研究社の順徳県出身社員を例に— 宮内 肇
- 10月20日 近代奉天と奉天紗廠 上田 貴子
- 11月17日 民国期のチンギスハン崇拝について 田中 剛
- 12月1日 1920～27年における賀川豊彦と中国 浜田 直也
- 12月8日 汪精衛南京政府下の大東亜戦争博覧会について 柴田 哲雄

漢字情報学の構築

班長 安岡孝一

本研究班の主眼は、漢字テキストをコンピュータというマナイタの上に載せて、何とかテキスト処理できるようにしよう、というものである。研究の対象としては、文字コード、組版、フォント、OCR、WWW、形態素解析、など多くの要素技術が考えられるが、本年は、スケルトンフォント技術に引き続き、白文に対する「点」の自動付与技術に関して、議論をおこなった。なお、本研究班では、参加者全員が文献や書籍を見ながら論じ合うというスタイルを取っているため、特定の発表者等は記さないことにする。

研究会記録（2006 年）

- 1 月17日 DynaFont Gaiji Builder
FONTWORKS 外字マスター NEO
- 2 月7日 フォントの小まとめ
- 4 月18日 「サポートベクトルマシンを用いた中国語解析実験」
「形態素解析のための拡張統計モデル」
SIGHAN
- 5 月16日 「全訳 漢辞海 第二版」
- 6 月6日 拓本文字データベース釈文2字検索
- 6 月20日 拓本文字データベースにおける頻度
50 以上の文字の分類
- 7 月4日 拓本文字データベースにおける頻度
10 以上の2-gram
- 9 月19日 拓本文字データベースにおける2-
gram, 末字, 頭字の頻度
Web 韻図
- 10月17日 8 文字間隔の韻の抽出
- 11月21日 廣韻と同用例による8 文字間隔の韻の
抽出
「唐代音による唐詩の朗読」について
廣韻平水韻對照表
- 12月5日 拓本文字データベースにおける連続し
た同韻字
- 12月19日 廣韻と同用例による8・10・12 文字
間隔の韻の抽出
古文・漢文問題データベース CD-
ROM

中国古代の基礎史料

班長 浅原達郎

前年に引き続き、郭店楚簡を読んだ。性自命出（1 月20 日～2 月17 日）、成之聞之（4 月14 日～28 日）、六德（5 月12 日～19 日）、尊徳義（5 月24 日～6 月2 日）、語叢一二三（6 月9 日～23 日）と進んで、郭店楚簡を読了。読書記記をまとめる作業は遅れており、老子・太一生水・語叢四の部分を『日古』第6 号（9 月22 日）、緇衣を『日古』第7 号（12 月22 日）に掲載した。現在、五行・魯穆公問子思・窮達以時の部分を準備しつつある。

夏休みがあけて、上海博物館蔵楚簡を読み始めた。ただし緇衣と性情論は、郭店楚簡との関連ですでに

読んでいる。孔子詩論（9 月22 日～10 月20 日）から始めて、子羔（10 月27 日～11 月17 日）、魯邦大旱（11 月24 日）、民之父母（12 月1 日）、從政（12 月8 日～同15 日）の諸篇を読み終えたところである。

陰陽五行のサイエンス

班長 武田時昌

陰陽五行説は、物類や自然現象の法則性や相互関係を説明する原理として大いに用いられた学説であり、中国の諸分野において独自の理論構造を生み出すパラダイム的な役割を果たした。これまでの研究においては、陰陽五行説の成立過程や配当説、それを援用した漢代の政治思想等に詳しい考察が試みられてきた。しかしながら、三国時代以降の史的展開や理論構造の特質については、十分な検討がなされているわけではないように思われる。そこで、自然学に限らず思想、宗教から文学、諸技芸に至る多彩な分野において、天人感応、物類相感等を含めた陰陽五行の説明原理が、実際にどのように活用されているのかを分析し、包括的、複眼的な見地からその構造と特色あるいは限界性を考究したいと考えている。

2005 年は、『五行大義』巻二、『医心方』巻二を会読した。また、中国科学院数学与系統科学研究院の呉文俊教授を招いて、日本科学史学会会京都支部例会と共催で特別講演会を開催した。詳しい内容は左記の通りである。

研究会記録（2006 年）

- 1 月28日 『五行大義』巻二，論配支干
宮崎 順子
- 3 月8日 特別講演：「中国数学史へのアプローチ」
呉 文俊
- 4 月18日 『黄帝内経明堂』の再検討
武田 時昌
- 5 月6日 『黄帝内経明堂』楊上善序文
闇 叔珍
- 5 月20日 『五行大義』巻二，論配支干
宮崎 順子
- 6 月3日 『五行大義』巻二，論配支干
仲畑 信
- 6 月6日 『医心方』所引医書佚文考
武田 時昌

人 文 学 報

6月20日『黄帝内经明堂』楊上善序文	閻叔珍	ら研究すべき課題を見だし、この時代の制度と社会の特質を理解する足がかりを得ることを期待している。とくに、前後の時代との連続と断絶という問題について洞察を深めたい。すでに『大元聖政國朝典章』28～33および『新集至治條例』所収の礼部にかかわる部分の会読を終えた。当該部分について、校訂電子本文を閲覧・検索するWebアプリケーションを公開した。本年度は、班員およびゲストによる研究報告のほか、『異国出契』に含まれる日元交渉関係文書を会読した。東大寺に伝わる写本や『元史』『高麗史』をはじめとする編纂資料の録文などと比較検討することによって、当時の外交文書についていくつかの興味深い知見を得ることができた。日本側からの答書は禅僧の撰文になるものと推定されるが、その修辞を凝らした文体は駢儷文の影響を色濃く残しており、中国、高麗からの來文が文意明瞭の古文体によるのと対照的である。禅林における中世日本漢学の特長を窺うことができる。2006年1月～12月の報告題目と担当者を掲げる。
6月24日『五行大義』卷二、論配支幹	仲畑信	
『五行大義』卷二、論五行体雜	橋本昭典	
7月15日『五行大義』卷二、論五行体雜	橋本昭典	
7月18日『医心方』卷二と明堂	武田時昌・閻淑珍	
7月25日『医心方』卷二、孔穴主治法	閻叔珍	
9月26日『医心方』卷二、諸家取背俞法	閻叔珍	
10月21日『五行大義』卷二、論支干雜	鄭宰相	
10月31日『医心方』卷二、針禁法	閻叔珍	
11月18日『五行大義』卷二、論方位雜	村田浩	
11月21日『医心方』卷二、灸禁法	閻淑珍	
12月5日『医心方』卷二 針例法	閻淑珍	
12月17日『五行大義』卷二、第七、論德	金志玪	
中国近世の日用類書の研究 班長 金文京		研究会記録（2006年） 1月17日『新集至治條例』礼部、補 2月21日「契丹史研究の新展開」古松崇 4月4日『新集至治條例』刑部、刑制、刑獄 4月18日「クビライ招諭日本及其文書」 オユンゴア 5月16日『新集至治條例』刑部、諸姦、諸盜 古松崇 5月23日The Dawning of a New Age in late Ming Huizhou: Merchants, Literati, and Innovation in the Visual Arts. ライデン大学 ツルンドルファー 5月30日「宋元時代における「社」信仰再考—州県社稷壇を手がかりにして—」 水越知 6月6日「江南・江北の「倭寇」」山崎岳 6月20日『新集至治條例』刑部、諸姦、諸盜 矢木毅 7月4日『異国出契』岩井茂樹
昨年に引き続き、『事林廣記』の講読を行った。		
講読箇所と担当者は以下のとおり。		
研究会記録（2006年）		
5月23日「文芸類」	大野修作	
6月13日「農桑類」	武田時昌	
6月27日「禅教類」	水越知	
10月24日「農桑類」（続き）	武田時昌	
11月14日「禅教類」（続き）	斉藤智寛	
11月28日「禅教類」（続き）	宮紀子	
12月12日「花果類」（続き）	森村謙一	
元代の法制 班長 岩井茂樹		
2004年度から発足したこの研究班は、元朝時代の行政文書・法制文書の会読をつうじて、その時代の制度と社会について知見をひろめることを目的としている。参加者それぞれが、会読の作業のなかか		

- 7月18日 『異国出契』 植松 正
 10月17日 「売身文書と婚姻（妾則婚）文書における婦女の地位と権利」 阿 風
 10月31日 「信牌問題から見た清代の互市と“沈黙外交”」 岩井 茂樹
 12月5日 「元明交替期における「節婦」の形成」 水越 知

真諦三蔵とその時代

班長 船山 徹

本研究班は前年度に引き続き、6世紀のインド人である真諦が中国において伝えた自注（真諦疏）の佚文集成を作成し、それを会読する作業と、真諦に関係する僧の伝記の会読等を行った。今年扱った文献は以下の通り。真諦『仁王般若経疏』護国品・受持品（三宅徹定、室寺義仁）、真諦『金剛般若経疏』（大竹晋、坂内栄夫、齋藤智寛）、真諦『部執論疏』（那須良彦、藤井淳、三宅徹定、加納和夫）、『勝天王般若波羅蜜経序』『広義法門経序』（稲葉穂）、『続高僧伝』所収道岳伝（古松崇志、潘哲毅、中西久味）。あわせて、高崎直道氏による研究発表「真諦三蔵の如来蔵思想」を聴き討議を行った。

中国古鏡の研究

班長 岡村秀典

漢代の銅鏡は、図像紋様の変化がいちじるしく、考古資料の年代をはかる指標として東アジア各地で重視されてきた。また、その図像と銘文は、漢人の精神世界をものがたる資料としても注意されてきた。そのような視角に留意しながら、昨年につづき音韻論から漢鏡の銘文を論じた B. Karlgren, “EARLY CHINESE MIRROR INSCRIPTIONS” (BMFEA, No. 6, 1934) を会読した。並行して実施した研究発表は以下のとおり。

研究会記録（2006年）

- 1月17日 「角王巨虚鏡」と「方格規矩四神鏡」に登場する瑞獣たち 光武 英樹
 2月28日 魏晉鏡の銘文（早稲田大学）車崎 正彦
 5月9日 泉屋博古館・唐鏡展の見学 廣川 守
 5月30日 宋明代の古鏡研究 岡村 秀典
 6月20日 大化前代宝器の研究 下垣 仁志

- 9月26日 内面の充実した鏡（元宮内庁書陵部）笠野 毅
 10月10日 中国古鏡における陰陽五行の銘文表現について 光武 英樹
 10月24日 鏡中の十二支について 佐野 誠子
 11月7日 東アジアの三世紀の鏡の製作と流通（国立歴史民俗博物館）上野 祥史
 11月28日 四～六世紀の中国鏡と銘文 森下 章司
 12月5日 国際シンポジウム：北魏時代の平城と雲岡石窟 北魏平城略考（大同市博物館）曹 臣 明
 雲岡考古新発見及其相關問題（雲岡石窟研究院）劉 建 軍
 方山永固陵の仏教造像 向井 佑介

中国社会主义文化の研究

班長 石川禎浩

冷戦体制の終結以後、いわゆる“社会主義の文化”は世界中で風化しつつあるが、今日の中国には、社会主義的な文化様式やイデオロギーがなお根強く残存している。現にそれらは、一般民衆の思考様式になお影響を与え、現体制の文化政策を方向付け、そして中国共産党史の歴史記述を強く規定している。また、20世紀中国における社会主義文化の展開は、同時代日本の社会主義文化の影響を受けたばかりでなく、戦後には日本の中国学に大きな影響を与えたことも忘れてはなるまい。2006年4月より3年計画で発足した本研究班は、20世紀中国の社会主義文化の諸相を主に歴史的視点から研究することを目指している。スタートにあたる今年には、中国共産党の歴史記述をはじめとして、映画、文芸、出版などについて報告がなされ、活発な議論を繰り広げることができた。特に、本所の客員研究員として楊奎松氏が在任された前半期間は、毎回の報告、討議などすべてを中国語で行い、当初の予想をこえる積極的な意見交換、討議が見られた。本年の報告は以下の通りである。

研究会記録（2006年）

- 4月28日 「中国社会主义文化の研究を始めるにあたって」 石川 禎浩

人 文 學 報

[illegible]

中国近世の国家支配の研究 古松 崇志
 文字定義情報に基づく文書表現系に関する研究 守岡 知彦
 客家語およびその周辺言語の記述研究 中西 裕樹
 中国古代中世の官制史 藤井 律之
 モンゴル時代の文化政策と出版活動 宮 紀子
 中国魏晋南北朝志怪の成立背景 佐野 誠子
 北慮南倭時代の中国社会 山崎 岳
 中国家具とその使用に関する研究 高井たかね
 中国唐宋の文学批評 永田 知之
 中国唐末宋初禅思想研究 齋藤 智寛
 中国中世の考古学研究 向井 佑介

「フランツ・リストと超絶技巧の美学」 岡田 暁生

ピアノ独奏

愛知県立芸術大学助教授

北住 淳

国際セミナー The Day in Kyoto 2006

2006年5月17日

於 百周年時計台記念館国際ホール

「TEI Day in Kyoto の趣旨と TEI の活動概要」

ウィッテルン クリスティアン

鶴見大学 大矢 一志

「TEI はなぜ日本で知られなかった、知られていないか、知られるようになるか」 千葉大学 土屋 俊
 「文字化された言語資源の少ない言語とテキストのマークアップ」

東京大学 松村 一登

「音声対話コーパスのマークアップ」

千葉大学 土屋 俊

産業技術総合研究所, 国立情報学研究所

板橋 秀一

国立情報学研究所 大須賀智子

「マークアップの課題を syntax から見た分類と解決のステップ」

鶴見大学 大矢 一志

「TEI 概説」

ブラウン大学 Syd Bauman

オックスフォード大学 Lou Burnard

「国際・地域対応版 TEI にむけて」

オックスフォード大学 Sebastian Rahtz

「伝記・人物研究情報のマークアップ」

コペンハーゲン大学 Matthew Driscoll

「トピックマップを使つての TEI テキスト」

New Zealand Electronic Text Centre

Conal Tuohy

「XQuery を使ってテキストを読む」

Oxford Text Archive James Cummings

共同研究セミナー (人文研アカデミー)

事業概況

第2回 TOKYO 漢籍 SEMINAR

2006年3月11日 於 学会会館 (千代田区神田)

三国鼎立から統一へ ― 史書と碑文をあわせ読む ―

「魏・蜀・呉の正統論」 宮宅 潔

「漢から魏へ―上尊号碑」 井波 陵一

「魏から晋へ―王基碑」 藤井 律之

退職記念講演会

2006年3月23日 於 本館大会議室

「詩を読む・語る・訳す」 教授 宇佐美 齊

アスニー・ゴールデンエイジ・アカデミー

(人文研アカデミー)

2006年4月 於 京都市生涯学習総合センター

(京都アスニー)

幕末・明治の京・大阪

7日 「明治維新と京都の天皇」 高木 博志

14日 「奇人の文明開化 ― 佐田介石と京・大阪 ―」 谷川 穰

21日 「近代京都の画家たち ― 西洋との違い ―」 高階絵里加

28日 「250年ぶりの戦争 ― 幕末期「兵」になった百姓たち ―」 岩城 卓二

第4回 レクチャー・コンサート

(人文研アカデミー)

2006年4月25日 於 本館大会議室

2006年5月・6月

於 本館大会議室

人 文 学 報

日仏交感の近代 — 文学・美術・音楽

5月25日 「近代詩の移入から創造へ」

名誉教授 宇佐美 齊

6月1日 「『日本』を書く — ピエール・ロティ
『お菊さん』の位置」 大浦 康介

6月8日 「京都・奈良と1900年パリ万博」

高木 博志

6月15日 「フランスへ飛んでいったトンボ —
『蜻蛉集』挿絵について」 高階絵里加

6月22日 「ドイツ音楽からの脱出? — 戦前日
本のフランス音楽受容」 岡田 暁生

附属人文学国際研究センター設立記念講演会

2006年6月29日 於 本館大会議室

複数文化接触領域の人文学のために

「接触領域研究の可能性」 田中 雅一

「畸人たちの宗教観 — 賣茶翁を中心と
して」 Francois LACHAUD

「7世紀における中国と西域の交流」

Antonino FORTE

夏期公開講座（人文研アカデミー）

2006年7月8日 於 本館大会議室

名作再読 — いま読んだらこんなに面白い

『『ボヴァリー夫人』の問い」

大浦 康介

『『坊ちゃん』と『風の又三郎』 — 貴
種流離譚としての読み比べ」

文芸評論家・元早稲田大学教授

高橋 世織

『『論語』のなかの物語」 金 文京

特別シンポジウム（人文研アカデミー）

2006年7月10日 於 本館大会議室

帝国日本を生きたナチズム — 衝撃と反発の双
面性 —

「『血と土』の受容と変容 — 日本農業
のナチス経験」 藤原 辰史

「ナチスから炙り出される日本右翼思
想」 評論家 片山 杜秀

「空間をめぐる学知の連鎖 — ナチス、
日本そしてアジア」 山室 信一

共同研究セミナー（人文研アカデミー）

2006年9月・10月 於 本館大会議室

東アジアにおける健康思想の系譜

9月28日 「養生哲学」 武田 時昌

10月5日 「本草医薬学」 森村 謙一

10月12日 「養生文学」 大阪府立大学 大平 桂一

10月19日 「鍼灸医術」

森ノ宮医療学園 長野 仁

10月26日 「身体技法」 六然社 寄金 丈嗣

開所77周年記念公開講演会（人文研アカデミー）

2006年11月2日 於 本館大会議室

生命のランドスケープ

「公債・年金・いのち — 『投資社会』

と18世紀のイギリス」 坂本優一郎

「ゲノム時代の人間 — 個の差異と社会
における連帯との間で」 加藤 和人

「望楼、楼閣から高塔へ — 中国仏塔の
成立」 田中 淡

附属人文学国際研究センター講演会

2006年12月21日

コンタクト・ゾーンを生きる

——複数文化接触領域の人文学のためにⅡ

「コンタクト・ゾーンとしての都市

——インド・ムンバイの場合」

奈良大学 ラーフル・シュリバスタヴァ

漢字情報研究センター講習会

・2006年度漢籍担当職員講習会（初級）

第1日（10月2日）

漢籍について

富谷 至

カードの取り方—漢籍整理の実践 永田 知之

第2日（10月3日）

工具書について

高井たかね

漢字目録カード作成実習

第3日（10月4日）

目録検索とデータベースの検索

安岡 孝一

漢籍データ入力実習（1）

第4日（10月5日）

和刻本について

梶浦 晋

漢籍データ入力実習（2）

第5日（10月6日）

朝鮮本について

矢木 毅

実習解説

梶浦 晋

- | | | |
|------------------------|-------|----------------------------------|
| 情報交換・質疑応答 | 富谷 至 | 月 1 日～2007 年 3 月 31 日)。 |
| ・2006 年度漢籍担当職員講習会(中級) | | ・古勝隆一千葉大学文学部助教授を助教授(東方学 |
| 第 1 日(11 月 6 日) | | 研究部)に採用(10 月 1 日付)。 |
| 経部について | 古勝 隆一 | ・向井佑介氏を助手(附属漢字情報研究センター) |
| 叢書部について | 山崎 岳 | に採用(12 月 1 日付)。 |
| 叢書と漢籍データベース | 安岡 孝一 | ・永田知之助手(附属漢字情報研究センター)は、 |
| 第 2 日(11 月 7 日) | | 2005 年 12 月 18 日大阪発、中央研究院歴史語言 |
| 史部について | 宮宅 潔 | 研究所に於いて唐代の文学批評に関する調査及び |
| 漢籍データ入力実習(1) | | 資料収集を行い、1 月 14 日帰国。 |
| 第 3 日(11 月 8 日) | | ・久保昭博助手(人文学研究部)は、1 月 6 日大阪 |
| 子部について | 武田 時昌 | 発、フランス国立図書館に於いて近代詩の虚構性 |
| 漢籍データ入力実習(2) | | に関する資料蒐集、パリ第 3 大学に於いて博士論 |
| 第 4 日(11 月 9 日) | | 文審査会及びシンポジウムに参加し、1 月 20 日 |
| 集部について | 井波 陵一 | 帰国。 |
| 漢籍データ入力実習(3) | | ・BEN-ARI, Eyal 外国人研究員は、1 月 9 日大阪 |
| 第 5 日(11 月 10 日) | | 発、フロリダ大学、ジョーンズ・ホプキンス大学、 |
| 現代中国書について | | アメリカ中東研究所等に於いて文化人類学に関する |
| 横浜国立大学大学院国際社会科学研究所科助教授 | 村上 衛 | 講演、ワークショップ、会議に参加し、1 月 |
| 実習解説 | 梶浦 晋 | 22 日帰国。 |
| 情報交換・質疑応答 | 富谷 至 | ・大浦康介教授(人文学研究部)は、文部科学省科 |

所 員 動 静

- ・宇佐美 齊教授(人文学研究部)は定年により退職(3 月 31 日付)。
- ・エスポジト, モニカ助教授(東方学研究部)は任期満了(3 月 31 日付)、当研究所招へい外国人学者として受入。
- ・小牧幸代助手(人文学研究部)は辞任の上(3 月 31 日付)、高崎経済大学地域政策学部講師に就任。
- ・大原嘉豊助手(東方学研究部)は辞任の上(3 月 31 日付)、京都国立博物館研究員に就任。
- ・籠谷直人助教授(人文学研究部)は当研究所教授に昇任(4 月 1 日付)。
- ・FORTE, Antonino ナポリ東洋大学教授・イタリア国立東方学研究所長は、客員教授(文化研究創成研究部門、4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日)。
- ・RACHAUD, Francois フランス極東学院京都支部長は、客員助教授(文化研究創成研究部門、4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日)。
- ・古勝隆一千葉大学文学部助教授を助教授(東方学研究部)に採用(10 月 1 日付)。
- ・向井佑介氏を助手(附属漢字情報研究センター)に採用(12 月 1 日付)。
- ・永田知之助手(附属漢字情報研究センター)は、2005 年 12 月 18 日大阪発、中央研究院歴史語言研究所に於いて唐代の文学批評に関する調査及び資料収集を行い、1 月 14 日帰国。
- ・久保昭博助手(人文学研究部)は、1 月 6 日大阪発、フランス国立図書館に於いて近代詩の虚構性に関する資料蒐集、パリ第 3 大学に於いて博士論文審査会及びシンポジウムに参加し、1 月 20 日帰国。
- ・BEN-ARI, Eyal 外国人研究員は、1 月 9 日大阪発、フロリダ大学、ジョーンズ・ホプキンス大学、アメリカ中東研究所等に於いて文化人類学に関する講演、ワークショップ、会議に参加し、1 月 22 日帰国。
- ・大浦康介教授(人文学研究部)は、文部科学省科学研究費補助金により、1 月 13 日大阪発、パリ社会科学高等研究院、フランス国立図書館に於いてフィクションに関する研究打ち合わせ及び資料収集を行い、1 月 22 日帰国。
- ・ウィッテルン, クリスティアン助教授(附属漢字情報研究センター)は、1 月 16 日大阪発、中華仏学研究所に於いて「仏教情報学」講義及び資料収集を行い、1 月 25 日帰国。
- ・安岡孝一助教授(附属漢字情報研究センター)は文部科学省研究拠点形成費補助金により、1 月 24 日大阪発、ミルウォーキ国立図書館、ニューヨーク国立図書館に於いて、文字コードとキー配列に関する所蔵調査を行い、2 月 5 日帰国。
- ・宮宅潔助教授(人文学研究部)は、文部科学省科学研究費補助金により、2 月 2 日大阪発、ミンスター大学に於いて、2 国間共同研究事業の打合せ及び資料調査を行い、2 月 14 日帰国。
- ・田中祐理子助手(人文学研究部)は、文部科学省科学研究費補助金により、2 月 9 日大阪発、ウェルカム医学史研究所に於いて、微生物学発展史関連資料の調査、収集を行い、2 月 16 日帰国。

- ・池田功助教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、2月13日大阪発、中央研究院語言研究所に於いてナム語に関連する西南中国の言語についての資料収集を行い、漢珍數位圖書股份有限公司に於いてデータ入力の仕様についての打合せを行い、2月16日帰国。
- ・石川禎浩助教授（東方学研究部）は、2月21日大阪発、北京大学、中国社会科学院近代史研究所、中国国家図書館、中国社会科学出版社等に於いて、歴史教科書及び歴史教育に関する調査を行い、2月25日帰国。
- ・藤井正人教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、2月13日大阪発、インド・ティルチラパッリ、トリヴァンドラム近郊等のヴェータ伝承地に於いて、伝承の現地調査を行い、2月27日帰国。
- ・永野直樹教授（人文学研究部）は、2月26日大阪発、済州大学校に於いて、日本軍戦争遺跡現地調査学会議に参加し、3月1日に帰国。
- ・ウィッテルン、クリスティアン助教授（附属漢字情報研究センター）は、3月3日大阪発、中華仏学研究所に於いて、中華仏学第5回国際会議に出席し、3月8日帰国。
- ・エスポジット、モニカ助教授（東方学研究部）は、2月15日大阪発、台湾中央研究院歴史語言研究所に於いて、道蔵輯要研究に関する資料収集及び研究打合せを行い、3月15日帰国。
- ・麥谷邦夫教授（東方学研究部）は、3月13日大阪発、香港中文大学に於いて、博士学位論文の試問を行い、3月16日帰国。
- ・高木博志助教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、3月14日大阪発、政府記録所（ソウル分館）、国立中央博物館に於いて、日韓の近代の文化財保護史に関する史料調査を行い、3月16日帰国。
- ・藤井律之助手（東方学研究部）は、京都大学教育研究振興財団助成金により、3月20日大阪発、北京大学に於いて、魏晉南朝の政治制度の調査・研究を行い、3月19日帰国。
- ・田辺明生助教授（人文学研究部）は、京都大学教育研究振興財団助成金により、2005年7月23日大阪発、インド、ジャワハルラル・ネルー大学に於いて国際会議に出席、国立文書館に於いて「南アジア近代における『民主主義と開発』」の歴史的研究、ウトカル大学等に於いて「自由とダルマの人類学——現代インドにおける地域倫理の模索」についての臨地調査・研究を発表を行い、3月22日帰国。
- ・田中雅一教授（人文学研究部）は、3月3日大阪発、ロンドン大学、オスロ大学、コペンハーゲン大学、ストックホルム大学、アムステルダム・フリー大学に於いて、宗教を中心とする文化接触の研究調査を行い、3月22日帰国。
- ・高田時雄教授（東方学研究部）は、3月12日大阪発、ロシア科学院東洋学研究所サント・ペテルブルグ支所、キヨソネ美術館に於いて、漢籍の調査と研究を行い、3月22日帰国。
- ・倉島哲助手（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、1月23日大阪発、マンチェスター大学社会学部に於いて、マンチェスター地域における武術の実践についての現地調査を行い、3月24日帰国。
- ・山崎岳助手（附属漢字情報研究センター）は、文部科学省研究拠点形成費補助金により、3月5日大阪発、ハンノム研究院、国立図書館、国立科学技術ドキュメンテーションセンター、国立公文書館、ハノイ文化大学、ホーチミン市総合科学図書館、図書館協会、大学図書館に於いて、漢字文献の情報化に関する調査、華人街会館等に於いて、在越華人の漢語文化に関する現地調査を行い、3月24日帰国。
- ・高井たかね助手（附属漢字情報研究センター）は、文部科学省科学研究費補助金により、3月16日大阪発、福州市に於いて唐宋建造物に関する調査、福清市等に於いて明代建造物、宋代水利灌漑技術に関する調査、泉州市等に於いて明清宗教建築・宗代石造建築、明清建造物の調査、南靖県等に於いて明清建造物・民具、周辺地区を含めた伝統的住居文化に関する調査、廈門市に於いて生活・習俗に関する調査を行い、3月26日帰国。
- ・森時彦教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、3月14日大阪発、上海市、

- 無錫市等に於いて、中国県制に関する現地調査・資料調査を行い、3月27日帰国。
- ・富谷至教授（東方学研究部）は文部科学省科学研究費補助金により、3月16日大阪発、ミュンスター大学に於いて2国間共同研究の遂行と2006年度の計画の打合せを行い、3月27日帰国。
 - ・エスポジット、モニカ助教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、3月18日大阪発、四川大学図書館、北京大学図書館に於いて江南清道教に関する資料収集を行い、3月27日帰国。
 - ・金文京教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、3月24日大阪発、中山大学に於いて中国伝統戯曲国際学術検討会に出席・論文発表を行い、3月27日帰国。
 - ・竹澤泰子教授（人文学研究部）は、文部科学省大学改革推進等補助金により、2005年5月30日東京発、ハーヴァード大学に於いて、人種・人種差別の人文学と遺伝学の融合研究を行い、3月29日帰国。
 - ・稲葉稜助教授（東方学研究部）は、3月20日大阪発、ウィーン大学、オーストリア国立アカデミーに於いて、研究打合せ・資料収集、ウィーン大学芸術史研究所に於いてAfghanistan Workshopに参加、ウィーン大学図書館にて所蔵文書調査を行い、3月29日帰国。
 - ・王寺賢太助教授（人文学研究部）は、3月18日大阪発、フランス国立図書館、国際哲学コレージュ、パリ第1ソルボンヌ大学に於いて学術協定打合せ及び18世紀フランス歴史叙述についての調査・研究を行い、4月8日帰国。
 - ・籠谷直人教授（人文学研究部）は、4月6日大阪発、香港大学アジア研究センターに於いて、セミナー「アジア的視点からの香港と日本について」にて報告を行い、4月8日帰国。
 - ・田中雅一教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、4月5日大阪発、サンフランシスコ・マリOTT・ホテルに於いてアメリカ・アジア学会国際会議へ出席し、軍事史研究所に於いてアメリカ軍の式典についての資料調査を行い、4月15日帰国。
 - ・高田時雄教授（東方学研究部）は、文部科学省研究拠点形成費補助金により、4月17日大阪発、米国議会図書館、メトロポリタン美術館に於いて、漢字文献保存状況の調査を行い、4月25日帰国。
 - ・大浦康介教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、4月21日大阪発、フランス社会科学高等研究院並びにパリ第7大学、フランス国立図書館に於いて、フィクション研究に関するセミナーに出席し研究打合せ及び資料収集を行い、5月4日帰国。
 - ・加藤和人助教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、5月16日大阪発、ソウルCOEXに於いて「Public Communication of Science and Technology」に出席及び発表を行い、5月21日帰国。
 - ・高田時雄教授（東方学研究部）は、5月20日大阪発、上海師範大学に於いて「敦煌の民族と言語」・「日本敦煌學簡史」についての講演を行い、5月25日帰国。
 - ・富永茂樹教授（人文学研究部）は、5月15日大阪発、グルベンキアン文化センター及び国立図書館に於いて、「京都ーリスボン、都市の憂鬱」について講演を行い、5月28日帰国。
 - ・菊地暁助手（人文学研究部）は、5月26日大阪発、韓国学中央研究院に於いて、地域資源としての〈景観〉の保全ならびに活用に関する研究会に参加、江陵端午祭にて世界無形遺産登録江陵の現地調査を行い、5月31日帰国。
 - ・加藤和人助教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、5月30日大阪発、ヘルシンキ・フェアセンターに於いて、ヒトゲノム国際機構（HUGO）第11回年会にて研究発表及び理論委員会に出席し、6月4日帰国。
 - ・高田時雄教授（東方学研究部）は、6月15日大阪発、キヨソネ美術館に於いて所蔵の漢籍の調査を行い、6月20日帰国。
 - ・高木博志助教授（人文学研究部）は、6月18日大阪発、慶尚南道統営群閑山面に於いて、壬辰倭乱をめぐる国際シンポジウムへ参加し、6月22日帰国。
 - ・竹沢泰子教授（人文学研究部）は、4月5日成田

- 発, マサチューセッツ工科大学, ハーバード大学に於いて, 人種・人種主義と科学との関係について研究を行い, 渡航中, 文部科学省科学研究補助金により, 6月12日～15日・6月22日～28日, ニューヨーク州立大学, ハーレム・スタジオ・ミュージックアジア系アメリカ人アートセンター, ワシントン大学に於いて, 人種の表象と表現の研究に関する資料収集を行い, 6月30日帰国。
- ・水野直樹教授(人文学研究部)は, 7月2日大阪発, 延世大学校, 忠清南道に於いて, 延世大学校国学研究院主催国際学術大会に参加及び発表を行い, 7月8日帰国。
 - ・ウィッテルン, クリスティアン助教授(附属漢字情報研究センター)は, 文部科学省研究拠点形成費補助金により, 6月30日大阪発, チュービンゲン大学, ソルボンヌ大学に於いて, 研究打ち合わせ及び国際人文情報学会への出席・研究報告を行い, 7月11日帰国。
 - ・高田時雄教授(東方学研究部)は, 文部科学省研究拠点形成費補助金により, 7月4日大阪発, ロシア科学院東洋学研究所サンクト・ペテルブルグ支所に於いて敦煌学国際検討会の打合せ及びロシア所蔵漢字文献の調査を行い, 7月12日帰国。
 - ・藤井正人教授(人文学研究部)は, 文部科学省科学研究費補助金により, 7月9日大阪発, エディンバラ大学に於いて, 第13回世界サンスクリット会議に出席し, 7月16日帰国。
 - ・ウィッテルン, クリスティアン助教授(附属漢字情報研究センター)は, 7月17日大阪発, 中華仏学研究所および中華電子仏典協会に於いて出講, 研究打合せを行い, 7月26日帰国。
 - ・曾布川寛教授(東方学研究部)は, 7月30日大阪発, 太原市文物考古研究所, 山西省博物館, 北京大学に於いて中国美術の調査と資料蒐集を行い, 8月3日帰国。
 - ・中西裕樹助手(東方学研究部)は, 文部科学省科学研究費補助金により, 8月1日大阪発, 香港城市大学, 海豊県誌弁公室に於いて, 中国広東省に分布するショオ語の研究打合せ, 現地調査および資料収集を行い, 8月17日帰国。
 - ・富谷至教授(東方学研究部)は, 文部科学省科学研究費補助金により, 8月8日大阪発, ストックホルム大学及びライデン大学に於いて科学研究費基盤研究Sの開始に伴う研究打ち合わせを行い, 8月18日帰国。
 - ・坂本優一郎助手(人文学研究部)は, 文部科学省科学研究費補助金により, 8月8日大阪発, ロンドン・メトロポリタン・アーカイヴズに於いて公債起債関係資料の調査を行い, 8月24日帰国。
 - ・山崎岳助手(附属漢字情報研究センター)は, 8月13日大阪発, 寧波大学, 双嶼港, 馬喬博物館等に於いて東アジア海域交流と日本伝統文化に関するフィールド調査及び資料収集を行い, 8月24日帰国。
 - ・池田巧助教授(東方学研究部)は, 文部科学省科学研究費補助金により, 7月31日大阪発, 中央民俗大学及び西南民俗大学に於いて西南中国の言語にかんする文献調査及び康定近郊にてムニャ語とリュズ語の調査を行い, 8月25日帰国。
 - ・岡村秀典教授(東方学研究部)は, 文部科学省科学研究費補助金により, 8月13日大阪発, 山西省考古研究所, 山西博物院, 北京大学に於いて北魏文物, 雲岡石窟・平城遺跡の調査を行い, 8月26日帰国。
 - ・籠谷直人教授(人文学研究部)は, 文部科学省科学研究費補助金により, 8月19日大阪発, ヘルシンキ大学に於いて第14回国際経済史学会に参加, 研究報告し, 8月28日帰国。
 - ・古松崇志助手(東方学研究部)は, 8月22日大阪発, 北京に於いて, 総合地球環境学研究所との共同研究プロジェクト「民族/国家の交錯と生業変化を軸とした環境史の解明」のため歴史遺跡及び現状についてフィールド調査を行い, 8月27日帰国。
 - ・森時彦教授(東方学研究部)は, 科学技術振興調整費により, 8月18日大阪発, 山西省社会科学院, 近代史研究所に於いて, 山西省, 北京市, 河北省における環境問題調査および国際学会「1910年代の中国」に参加し, 8月30日帰国。
 - ・石川禎浩助教授(東方学研究部)は, 科学技術振興調整費により, 8月18日大阪発, 山西省社会科学院, 近代史研究所に於いて, 山西省, 北京市,

- 河北省における環境問題調査および国際学会「1910年代の中国」に参加し、8月30日帰国。
- ・宮紀子助手（東方学研究部）は、8月22日大阪発、ウズベキスタン、カザフスタン、キルギスタン、中国に於いて、総合地球環境学研究所との共同研究プロジェクト「民族/国家の交錯と生業変化を軸とした環境史の解明」のため歴史遺跡及び現状についてフィールド調査を行い、9月6日帰国。
 - ・田辺明生助教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、7月31日大阪発、ブバネーシュワル及びブリー近郊に於いて、民主化にともなう社会変容についてのフィールド調査、デリー大学に於いてインド民主主義に関する研究打合せ、資料収集を行い、9月9日帰国。
 - ・森時彦教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、9月7日大阪発、社会科学院近代史研究所及び新河県政府に於いて中国県制に関する調査、資料収集を行い、9月13日帰国。
 - ・高田時雄教授（東方学研究部）は、文部科学省研究拠点形成費補助金により、9月7日大阪発、南京師範大学、上海図書館に於いて「轉型期的敦煌學—繼承與發展」國際學術檢討會出席、漢字文献の調査を行い、9月13日帰国。
 - ・王寺賢太助教授（人文学研究部）は、9月9日大阪発、トロワリヴィエール大学、ケベック大学に於いて国際18世紀学会若手セミナー『啓蒙と歴史』に参加し、9月18日帰国。
 - ・倉島哲助手（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、8月22日大阪発、上海第2工業大学、新郷市、上海市に於いて、現地における武術の実践に関する調査を行い、9月18日帰国。
 - ・池田巧助教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、9月9日大阪発、カルフォルニア大学、ワシントン大学に於いてチベット・ビルマ語のデータベース利用に関する打合せ及び第39回国際漢藏語学会に参加し、9月19日帰国。
 - ・李昇燁助手（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、9月18日大阪発、大韓民

- 国政府・国家記録院に於いて戦前朝鮮における民族問題に関する資料調査を行い、9月23日帰国。
- ・岩井茂樹教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、9月11日大阪発、中国社会科学院歴史研究所、第1歴史檔案館、南開大学、国家図書館に於いて、学術講演および資料調査を行い、9月24日帰国。
 - ・富谷至教授（東方学研究部）は、9月21日大阪発、ソウル市内、忠北大学に於いて、「張家山漢簡、2年律令及び韓国の法制」に関する学術大会に出席及び研究発表し、9月24日帰国。
 - ・矢木毅助教授（東方学研究部）は、9月21日大阪発、清州市、忠北大学に於いて、「張家山漢簡、2年律令及び韓国の法制」に関する学術大会に出席及び研究発表し、9月24日帰国。
 - ・齋藤智寛助手（附属漢字情報研究センター）は、8月27日大阪発、中央研究院歴史語言研究所に於いて資料調査、研究打合せを行い、9月25日帰国。
 - ・石川禎浩助教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、9月11日大阪発、スタンフォード大学フーバー研究所、国立公文書館、ワシントン大学に於いて、中国社会主义運動に関する資料調査及び研究打合せを行い、9月26日帰国。
 - ・田中雅一教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、9月21日大阪発、ロンドン大学、ランカスター大学に於いて、インド系移民調査、「Gender and Spirtual Praxis in Asian Contexts Conference」に出席し、ヘブライ・エルサレム大学に於いて「War and Peace in Asia」国際セミナーにて講演し、10月6日帰国。
 - ・久保昭博助手（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、10月4日大阪発、テアトル・ド・ラ・マニユファクチュール、フランス国立図書館に於いて、レーモン・クノー国際シンポジウム出席及び研究発表と文学理論に関する資料収集を行い、10月15日帰国。
 - ・大浦康介教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、10月18日大阪発、社会科学高等研究院に於いて、GDR全体会議に出席

- し、フィクション論関係資料収集を行い、10月24日帰国。
- ・田中雅一教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、10月25日大阪発、シンガポール大学及びビンタン地方に於いて、東アジアのインド人移民についての国際会議に出席し、シンガポールとインドネシアの関係について現地調査を行い、10月30日帰国。
 - ・ウィッテルン、クリスティアン助教授（附属漢字情報研究センター）は、文部科学省科学研究費補助金により、10月3日大阪発、ミュンスター大学、ベルリン国家図書館に於いて漢字研究ナレッジベースについての研究打合せと資料収集及び出張、ヴィクトリア大学に於いて、TEIのメムバース・ミーティング2006年出席、TEIの国際化について研究打合せを行い、11月1日帰国。
 - ・船山徹助教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、10月30日大阪発、人民大学に於いて中国仏教史に関する資料収集と打合せ及び中日仏学会議に出席・研究発表し、11月4日帰国。
 - ・高木博志助教授（人文学研究部）は、10月29日大阪発、オーストリア国立図書館、ユダヤ博物館、世界遺産地区、オーストリア抵抗史料研究所に於いて、共同研究「国民国家の比較史的研究」に関する調査を行い、11月4日帰国。
 - ・森時彦教授（東方学研究部）は、科学技術振興調整費により、10月30日大阪発、復旦大学、浙江交通運輸建設股份有限公司に於いて中国環境問題に関する研究打合せ及び中国交通環境に関する調査を行い、11月5日帰国。
 - ・齋藤智寛助手（附属漢字情報研究センター）は、文部科学省科学研究費補助金により、10月26日大阪発、雲林科技大学漢学資料整理研究所、竜山寺、国家図書館に於いて、「2006年漢字研究国際学術検討会」に出席し、仏教および道教信仰に関する研究の現地調査、資料収集を行い、11月5日帰国。
 - ・竹沢泰子教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、10月26日成田発、ハーバード大学に於いて、『人種概念の普遍性』英語版出版打合せ、アジア協会、カルフォルニア大学アーヴァイン校に於いて、アジア系アメリカ人に関する資料収集を行い、11月9日帰国。
 - ・石川禎浩助教授（東方学研究部）は、科学技術振興調整費により、11月3日大阪発、新会市内、中山市内、香格里拉大酒店に於いて、広東省における環境調査及び「紀念孫中山誕辰140周年学術討論会」に出席、研究報告を行い、11月9日帰国。
 - ・竹沢泰子教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、11月11日大阪発、中山大学に於いてシンポジウム「境界のないアジア」に参加し、11月14日帰国。
 - ・水野直樹教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、11月16日大阪発、大田市内、忠南大学校に於いて、韓国社会史学会に参加及び資料調査を行い、11月21日帰国。
 - ・藤井正人教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、11月18日大阪発、インド考古局、マハラジャ・サラジラオ大学東洋研究所、Lal Chand 学術図書館に於いて、ヴェーダ文献伝承の現地調査を行い、11月26日帰国。
 - ・山崎岳助手（附属漢字情報研究センター）は、11月21日大阪発、ホテル・インターコンチネンタル・マニラ、フィリピン国立図書館に於いて、IAHAにおける学術報告及び16世紀の華人に関する資料調査を行い、11月27日帰国。
 - ・佐野誠子助手（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、12月5日大阪発、北京大学に於いて六朝文学国際研究会議へ参加及び研究発表を行い、12月9日帰国。
 - ・金文京教授（東方学研究部）は、12月7日大阪発、中央研究院歴史語言研究所に於いて、俗文学学術研討会に参加及び基調講演を行い、12月9日帰国。
 - ・王寺賢太助教授（人文学研究部）は、12月9日大阪発、フランス国立図書館に於いてクロック「レナルとそのネットワーク」に参加し、12月23日帰国。
 - ・岡田暁生助教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、12月19日大阪発、バ

イエレン国立図書館に於いて、19世紀の音楽史関係の資料調査を行い、12月26日帰国。

- 高田時雄教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、12月24日大阪発、長榮中學図書館に於いて、表音文字による中国語資料の調査を行い、12月29日帰国。
- 森時彦教授（東方学研究部）は、科学技術振興調整費により、12月21日大阪発、上海市档案馆、徐州師範大学、青島市档案馆等に於いて、中国環境問題に関する調査・研究打合せ・資料収集を行い、12月30日帰国。

外国人研究員

- 崔 鳳春 廣西師範大学社会文化興旅遊学院教授
日中戦争期中国における朝鮮人の抗日運動と日本人の反戦運動

（文化生成研究客員部門）

受入教員 水野教授

期間 1月26日～8月20日

- 楊 奎松 北京大学歴史系教授
近代東アジア社会主義運動史

（文化連関研究客員部門）

受入教員 石川助教授

期間 3月13日～9月12日

- EMMERICH, Reinhard ミュンスター大学教授
唐代の判の研究

（文化生成研究客員部門）

受入教員 富谷教授

期間 9月5日～2007年2月28日

- SAKAI, Cecile パリ第7大学東アジア言語・文明学部教授

日本近代小説に見る虚構性構築の手法

（文化連関研究客員部門）

受入教員 大浦教授

期間 9月25日～2007年1月25日

招へい外国人学者

- WANG, Ding ベルリン・ブランデンブルク科学院非常勤研究員

中央アジア版刻史の研究

受入教員 高田教授

期間 2005年11月3日～2007年11月2日（継続）

- GUMBRECHT, Cordula ドイツ国立図書館東アジア部主任

吐魯番探検隊の研究 — ドイツ隊と大谷隊

受入教員 高田教授

期間 2005年11月3日～2007年11月2日（継続）

- 金 春實 忠北大学校人文学部教授
三国時代仏教彫刻の中国、日本との比較研究

受入教員 曾布川教授

期間 1月20日～7月20日

- 朴 盛鍾 関東大学校人文学部メディア国文学科教授

室町時代の和製漢語と朝鮮王朝初期の韓国漢字語との対比研究

受入教員 金教授

期間 3月7日～8月21日

- ESPOSITO, Monica
道蔵輯要の研究

受入教員 麥谷教授

期間 4月1日～2007年3月31日

- 阿 風 中国社会科学院歴史研究所副研究員
中国明清時代における法律・裁判文書の研究

受入教員 岩井教授

期間 4月5日～7月3日

- 池上英子 ニュースクール大学大学院教授
祇園祭の歴史社会学的研究

受入教員 高木助教授

期間 5月26日～8月13日

- 陳 熙遠 中央研究院歴史語言研究所助理研究員
清代法制史、近代思想史

受入教員 森教授

人 文 学 報

- 期間 5月28日～6月27日
・于 志嘉 中央研究院歴史語言研究所研究員
明代社会史および軍事史の研究
受入教員 岩井教授
- 期間 5月28日～6月27日
・王 國良 台北大学古典文献学研究所所長
東アジア漢文小説研究
受入教員 金教授
- 期間 6月18日～7月5日
・張 啓雄 中央研究院・近代史研究所
「政教分離」と「政経一体」 戦後日本対台湾外交
政策の形成と転換
受入教員 籠谷教授
- 期間 6月26日～8月10日
・黄 克武 中央研究院近代史研究所研究員
日本の陽明學與中國近代化
受入教員 森教授
- 期間 6月27日～9月22日
・成 素梅 山西大学科学技術哲学研究センター教
授
日本における物理学の受容とその科学哲学的考察
受入教員 武田教授
- 期間 6月28日～11月25日
・SMITH Henry コロンビア大学東アジア学科教
授
日本近代建築史論、講談及び浪曲における赤穂浪
士
受入教員 高木助教授
- 期間 7月1日～2007年6月30日
・黄 蘭翔 中央研究院台湾史研究所副研究員
『関中創立戒壇図経』にみえる唐代の仏教伽藍
受入教員 田中淡教授
- 期間 7月14日～9月13日
・陳 金華 ブリティッシュコロンビア大学準教授
8世紀初期の中国国家と宗教
受入教員 船山助教授
- 期間 7月25日～8月19日
・崔 鳳春 廣西師範大学社会文化與旅遊学院教授
日中戦争期中国における朝鮮人の抗日運動と日本
人の反戦運動
受入教員 水野教授

- 期間 8月21日～11月15日
・池上英子 ニュースクール大学大学院教授
祇園祭の歴史社会学的研究
受入教員 高木助教授
- 期間 9月25日～2007年2月28日
・LEDDEROSE, Lothar ハイデルベルク大学美
術史研究所所長
房山雲居寺を中心とする中国仏教石刻資料と仏教
儀礼空間
受入教員 田中淡教授
- 期間 9月25日～2007年3月24日
・阿 風 中国社会科学院歴史研究所副研究員
中国明清時代における法律・裁判文書の研究
受入教員 岩井教授
- 期間 9月27日～10月26日
・VOGELSANG, Kai ミュンヘン大学ハイゼンベ
ルグ特別研究員
Studies in the textual and literary criticism
of the Tso-chuan (c. 4 thc. BC)
受入教員 ウィッテルン助教授
- 期間 10月1日～2007年9月30日
・高 啓安 蘭州商学院教授
シルクロード飲食文化の研究
受入教員 高田教授
- 期間 10月5日～2007年10月4日
・LAPTEV, Sergey 実践東洋学院社会政治学部
助教授
汎アジア科学技術起源論
受入教員 武田教授
- 期間 10月26日～2007年10月25日
・鞏 文 中国社会科学院考古研究所副研究員
3～6世紀の装身具からみた東アジアの文化交流
受入教員 岡村教授
- 期間 12月6日～2007年3月5日
外国人共同研究者
・PAUL, Paramita ライデン大学漢字研究所研修
員
中国禪僧の肖像画

- 受入教員 富谷教授
 期間 2月1日～3月15日
 • SCHERRMANN, Sylke Ulrike
 青島旧蔵ドイツ語文献中の法制関係資料の調査
 受入教員 岩井教授
 期間 2月27日～3月31日
 • 許 芝銀 京畿大学校時間講師
 江戸時代朝鮮通信使の研究
 受入教員 金教授
 期間 3月31日～2007年2月28日
 • ESPESSE, Gregoire 中央研究院歴史語言研究所
 研究員
 道教史における『太平経』の再評価
 受入教員 麥谷教授
 期間 4月1日～2008年3月31日
 • 韓 燕麗
 海外華人による文学・映画作品に関する研究
 受入教員 金教授
 期間 4月1日～2007年3月31日
 • SANF, Charles Theodore ミュンスター大学漢
 字・東アジア学研究所講師
 中国前漢時代の礼と法をめぐる学術思想
 受入教員 富谷教授
 期間 4月10日～2007年4月9日
 • 金 麗實
 植民地期在満朝鮮人の生活・文化・ナショナルアイ
 デンティティー
 受入教員 水野教授
 期間 4月15日～2008年4月14日
 • 關 瑾華
 中國戯曲, 俗文學, 特別是廣東的説唱
 受入教員 金教授
 期間 7月10日～2007年6月30日
 • LIM, Sungyun
 植民地期朝鮮の家族制度と法制度に関する研究
 受入教員 水野教授
 期間 9月15日～2007年7月30日
 • DE GANON, Pieter Sebastian
 近世・近代日本における「肉食」の文化的意味,
 歴史, 社会関係
 受入教員 高木助教授

- 期間 9月20日～2007年8月31日
 • SCHERRMANN, Sylke, Ulrike
 青島旧蔵ドイツ語文献中の法制関係資料の調査
 受入教員 岩井教授
 期間 10月1日～2007年3月31日

外国人研究生

- SOLOMON, Deborah
 1929年光州学生運動の研究
 受入教員 水野教授
 期間 2005年7月1日～2007年6月30日(継
 続)
 • 朴 眞煥
 韓国における良心的兵役拒否を通してみる韓国社
 会の徴兵制についてのディスコース研究
 受入教員 田中(雅)教授
 期間 4月1日～2007年3月31日
 • SHASHNINA, Olga Vladimirovna
 現代日本社会における宗教の役割
 受入教員 田中(雅)教授
 期間 4月1日～2007年3月31日
 • SHENDEROVICH, Esther
 国際関係における明治期日本の自己表現
 受入教員 高木助教授
 期間 4月1日～2007年3月31日
 • 常 雪鷹
 日中古典文学の比較研究
 受入教員 金教授
 期間 10月1日～2007年9月30日
 • KEET, Philomena
 衣類と遊ぶ 日本の若者ファッション現象である
 コスプレに見る周縁性, 創造力, アイデン
 ティティ
 受入教員 田中(雅)教授
 期間 10月1日～2007年3月31日
 • 翟 魯寧
 中国貴州省安順屯堡地域における「地劇」とそ
 こに生活している女性達の関わり
 受入教員 田中(淡)教授

期間 10月1日～2007年3月31日

『中国美術の圖像學』

曾布川 寛編

2006年3月20日刊

『難波鉦 ― 梅之部抄』 文明と言語研究班

横山 俊夫編

2006年3月20日刊

『東洋学へのコンピュータ利用 第17回研究セミナー』（全国文献・情報センター人文社会科学学術情報セミナーシリーズ京都大学学術情報メディアセンター第78回研究セミナー）

2006年3月24日刊

『日仏交感の近代 ― 文学・美術・音楽』（京都大学学術出版会）

宇佐美 齊編

2006年5月15日刊

『江陵張家山二四七號墓出土漢律令の研究』（朋友書店）

富谷 至編

2006年10月25日刊

『ミクロ人類学の実践 ― エイジェンシー / ネットワーク / 身体』（世界思想社）

田中雅一・松田素二編

2006年11月30日刊

出 版 物

『人文学報』 第93号（紀要第152冊）

2006年3月31日刊

『東方学報』 78冊（紀要第151冊）

2006年4月10日刊

『東方学報』 79冊（紀要第153冊）

2006年9月30日刊

『東洋学文献類目』 2003年度

2006年3月27日刊

ZINBUN number 38

2006年3月刊

『所報人文』 第53号

2006年6月30日刊

研究報告その他

『雲岡窟 遺物篇』（朋友書店）

岡村 秀典

2006年2月20日刊